令和6年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
68	川崎市立野川小学校	伊藤　肇

学 校 教 育 目 標	学校運営方針	今年度の重点目標
かしこく　やさしく　たくましく ・意欲と好奇心をもって学習に臨む子、生きる知恵をもった子 ・自分、他人、集団を大切にする心をもった子 ・心身ともに健康な子	○身につけさせたい資質・能力を育む ○元気な体と豊かな心を育む ○安心・安全な学校を育む ○地域に開かれた特色ある学校を育む	・教育力を高め、身につけさせたい資質・能力の育成を図る ・ふれあいを大切に認め合う心の育成を図る ・安心・安全を守り、心身の健やかな育成を図る ・連携を深め、学校愛・地域愛の育成を図る

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	・教育力を高め、身につけさせたい資質・能力の育成を図る	①基礎・基本のさらなる定着と主体的に学ぶ意欲の育成○学習指導要領の趣旨を大切にした主体的・対話的で深い学びの推進 ②資質・能力育成に向けた教育内容の効果的な編成○カリキュラム・マネジメントによる学習指導計画の策定○指導体制や諸条件の整備と活用 ③体力の向上○体育授業の充実とキラキラ活動の推進 ④指導力・授業力の向上○校内研究を中心とした実践研究○学び合いによる授業づくり○GIGAスクール構想実現に向けた研修と計画作成○校外研修への積極的な参加	○本校ではかねてより教科を問わず、主体的に学ぶ意欲の育成のために「学び合い」をキーワードにして授業の練り上げを大事にしてきた。このことを踏まえて「主体的・対話的で深い学び」の授業を意識し、国語科を中心にして、授業改善を行ってきた。児童のアンケートを見ると、約9割の児童が楽しく学習に取り組め、内容もわかると答えている。校内研究の振り返りでは、職員からつけたい力を意識しながら児童と単元の見通しをもち、話す聞くの学年の系統性を示しながら取り組んできたので、友達の考えも取り入れながら深い学びにつなげることができたとしている。 ○基礎基本の定着を図るには普段の学習だけでは時間が足りないし、個人差も大きいことから家庭での学習の協力を得ながら、学校でも時間の捻出が必要となってくる。日課表の見直しや他教科との関連、行事等の精選、次の学年へのつながり等も考慮しながらカリキュラムマネジメントしていくことが必要だ。	○基礎基本のさらなる定着のために時間を捻出する一つの手立てとして、日課表を見直すこととした。本校児童は朝の集まりが苦手な子も多く、朝の時間に読書や異学年交流、キラキラタイムなどを入れて、登校の意欲を高めてきた。しかし、水曜日は短縮時程のため朝の時間は取っていなかった。次年度は水曜日も朝の時間を取ることで、いつも同じリズムでスタートすることができ、これまでの取り組みに加えて「学習のベース」となることや個人差への対応等、学年で統一した取り組みを行うことで、学習のベースを築いていきたい。 ○学年における年間指導計画を早い段階で見つめ、先の見通しと行事と教科との関連性や生活科・総合的な学習の時間と他教科との関連性、地域学習素材の開発等を手がげ、野川小らしい学習指導計画を作り上げていきたい。 ○GIGA端末の利用に子どもたちは慣れてきたが、教師側がどの教科のどの場面で使うと効果的なのか、個人レベルではなく学年の系統性を位置付けていく必要がある。
2	・ふれあいを大切に認め合う心の育成を図る	①認め合う学習習慣・生活習慣の育成○聴き合う関係を大切にした学年学級経営の推進○読書活動や読み聞かせの推進 ②ふれあい活動の推進○野川のつどい、ひだまりハーモニー,集会活動など、内容を精選した異学年交流によるふれあい活動の推進○豊かな感性を育む情操教育 ③特別活動等を通した児童の主体的な取り組みの奨励と支援○学年段階に応じた行事や特別活動への児童の参画○個のよさを生かせる支援○あいさつ運動の継続 ④自分づくり友だちづくりと社会性の向上○「かわさきし子どもの権利条例」の趣旨を生かした人権尊重教育○共生共育プログラムを年間計画に基づき全学級で実施	○3年間のコロナ禍を経験すると、学校の役割の一つとして、「つながり」ということが浮き彫りになった。担任と児童、児童相互、他学年との交流、全校児童での取り組み、保護者へのアウトプット、地域の中の一員としての意識等、川崎におけるキャリア在り方生き方教育にも関連している。今年度は全校児童が体育館に集まり、ひだまりハーモニーを行ったり、野川のつどいを学習発表の場、地域・保護者の方々とのふれあいの場としてリニューアルして行った。どちらの取り組みも保護者から続けてほしい取り組みであるという評価をいただいた。 ○運動会等、学校行事も児童の主体性が発揮できることを主眼に取り組んできたので、勝ち負けにこだわったり、結果に左右されたりすることなく児童は振り返りをすることができた。しかし保護者アンケートでは、運動会にリレーを復活させてはどうか、勝ち負けで感じることもあるのではという意見もあった。	○5年ぶりの野川のつどいではリニューアルのフォーマットが今年できたので、次年度以降も学習発表のアウトプットの場として、地域・保護者との交流の場として、各学年が年度当初から意識して取り組んでいきたい。また、文科系のクラブや委員会の発表の場としての発展や民生委員さんや消防団、避難所運営にあたる皆さんとの交流なども考えられる。 ○学校行事等が教師主体でお膳立てされたものではなく、児童の思いをいかに実現させるかを工夫し、子どもたちの自己肯定感を高めていきたい。 ○子どもたちのコミュニケーション不足は、コロナ禍によって一層加速化している印象もあるので、共生共育プログラムを年間を通じて計画的に行い、児童相互の理解に役立てていきたい。

3	・安心・安全を守り、心身の健やかな育成を図る	①支援体制の確立と推進〇支援教育コーディネーターを中心に組織的な対応を心がけた全職員による支援教育の推進〇教育サポーターやボランティアの確保と運用〇教育相談、ケース会議の充実 ②児童指導体制の充実〇野川スタンダードの共通理解〇報告連絡相談などの組織的で共通認識をもった対応 ③いじめを許さない体制づくり〇いじめの早期発見と早期対応〇いじめ防止基本方針の策定 ④防犯防災体制の確認と教育の推進〇児童の安全を最優先した非常時の準備と訓練の実施〇安全安心に向けた保護者、地域近隣校との連携強化〇情報モラルや防犯教育の推進	〇支援教育コーディネーターを中心にして、個別に支援が必要な児童について、全職員で取り組んできた。何らかの事情で教室に入れない児童には別室を用意し、そこでの取り組みでエネルギーをためたり、ほっとできる場となったりしている。また支援の在り方などについて、研修の場を何回か企画し行ってきた。しかし残念ながら、新たな不登校児童が生まれるなど、まだまだ対応が不十分なところもある。 〇本校児童は学校だけではなく、関係機関とのつながりがある児童も多いことから、必要に応じてケース会議を行い、情報共有を十分に行ってきた。これからも児童相談所や区役所、児童家庭センター等との連携を図っていきたい。 〇ここのところ、高学年においてスマートフォンをめぐるトラブルが続いている。学校外の出来事だがその後の人間関係にも大きく影響するために対応せざるをえない。出前授業等情報モラルについては、中学年くらいのまだあまりスマートフォンを持っていない段階で重点的に指導したい。	〇学校は一斉指導によるところが多く、その方が早い場合も多いが一人ひとりの個性は様々で多様性を認めていくのが今日の対応であろう。まず教職員が様々な多様性を認め、ひとり一人を大切にする気持ちを持つために研鑽を積むために研修の機会を設定していきたい。また、見せしめのようなしかり方や高圧的な物言いなどを改め、共感的に児童の気持ちを受け止められるよう、組織的に取り組みたい。 〇引き続き、関係諸機関との連携を深め、児童理解に取り組んでいきたい。 〇GIGA端末を含め、情報モラルの学習は外部講師も呼びながら、中学年くらいの年齢から指導していきたい。また、保護者が参観するときにあわせて行うことで親子ともども指導できるので、そういう取り組みも考えていきたい。
4	・連携を深め、学校愛・地域愛の育成を図る	①連携教育の推進〇幼稚園保育園との交流推進〇野川中との小中の学びの連携の強化 ②保護者や地域の教育力の活用〇保護者との連携強化と教育ボランティアの活用〇地域学習材や地域協力者を積極的に学習に取り入れた地域の理解と交流の推進 ③開かれた学校づくりの推進〇学校評価をもとにマネジメントを計画的に進め、全職員による共通理解と保護者、地域への報告〇学校運営協議会等の充実〇学校からの幅広い情報発信	〇今年度は特に地域の中にある学校を意識して取り組んできた。学校では「野川スタンダード」をもとに正しく生活できるものの地域に出ると、羽を伸ばしてしまい苦情の電話をいただくこともある。学校は地域の多くの皆さんにも支えられて成り立っていることを昨年度の周年行事で学んだので、その感謝の気持ちを育んでいきたい。 〇学校からの情報発信がミマモルメ中心だが、学校側からのお願いや訂正が多く、本来の目的と乖離している。個人情報保護の問題もあり、幅広く発信することができないものもあるが、学校ホームページをもっと有効に使い、手軽に見てもらえるようにしたい。 〇野川の地域は小中合同研修も含めて、連携が図れているので続けていきたい。幼保小との連携も少しずつ戻ってきたので、交流をもう少し進めてい	〇今年度フォーマットができた野川のつどいを年間計画にしっかりと位置づけ、保護者・地域とのつながりの場として確立していく。 〇地域人材や素材を発掘し、カリキュラムの中にしっかりと位置付けていきたい。 〇学校ホームページをもっと見やすいものにして、いつでも情報が見られる便利なツールとし、ミマモルメは災害や不審者情報など本来の目的で使っていきたい。 〇小中、幼保小との連携がきちんと確保されるような設定をあらかじめ作り、計画的組織的に行うことで安心して進級進学ができるようにしていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・学校運営協議会では学校運営方針や行事の取り組みなどについて説明させていただき、授業参観もしていただいた。子どもたちが熱心に授業に参加していることやGIGA端末を授業の中で効果的に使っている様子を評価していただいた。一方で、登下校の安全について学校でもう少し指導した方がよいことや児童アンケートで相談先が大人よりも子ども優先になっていることについて、改善できるとよいとご指摘いただいた。	・昨年度の150周年事業を通して、地域とのつながりを再認識し、今年度は野川のつどいを5年ぶりに新しい形で復活し、一定の成果が得られた。今後も発展できる要素があるので、しっかりと位置付けたい。同時に年間を見通した学習指導計画を早い時期から検討し、カリキュラムマネジメントをしていきたい。基礎基本のさらなる定着のために日課表を見直し、モジュール学習を組織的計画的に取り入れ、学力の底上げをしていきたい。学校ホームページを充実させ、学校生活の様子がいつでも保護者の方々に伝わるように変えていきたい。特別教室にエアコンが設置されていないので、粘り強く市教委にお願いし、児童が暑い時期の安全確保に努めていきたい。